

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社片山製薬所 枚方本社ビル	階数	地上6F
建設地	大阪府枚方市招提田近	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,450時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年8月 予定	評価の実施日	2023年6月21日
敷地面積	946㎡	作成者	森田 明
建築面積	466㎡	確認日	2023年6月21日
延床面積	2,305㎡	確認者	森田 明

本図を右クリックし、「図の複製」を選択していただくことで、外観図等を貼り付けることができます。

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 設計上の配慮事項

総合	その他
鉄骨造6階建て事務所用途の建物である。快適な室内環境となるよう、十分な採光および換気量の確保を行っている。敷地内ではできる限り緑化を施し、暑熱環境の緩和に配慮した計画としている。	特になし。
Q1 室内環境 室内環境は十分な採光を確保できるよう開口を確保した。また、十分な換気が行われるよう基準の1.4倍以上の換気量を確保した。	Q3 室外環境(敷地内) 沿道に緑化を行い、外観は落ち着いた色合いとすることで周辺のまちなみとの調和に配慮した。
LR1 エネルギー 外壁や屋根に適切に断熱を行い、外皮断熱性能向上を行った。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率: 98%
Q2 サービス性能 耐用年数の長い配管の採用や、階高の確保、室内可変性に対応できるように内壁を工夫するなど、維持管理・更新性に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 水栓器具は節水型便器や自動水栓を採用し、水資源保護に配慮した計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R5-0030

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	株式会社片山製薬所 枚方本社ビル建替え工事							
	建設地	大阪府枚方市招提田近							
	用途/区分	事務所							
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B-					
①	CO2削減			3					
②	みどり・ヒート アイランド対策			2					
③	建物の断熱性			5					
④	エネルギー削減			2					
⑤	自然エネルギー直接利用			—					
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.0	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	2.1	2
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		